

18組ファイナル進出

群馬イノベーションアワード2次審査



ビジネスプランをプレゼンテーションする出場者

9回目を迎えた起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード(GIA)2021」(上毛新聞社主催、田中仁財団共催)の2次審査が23日、前橋市の同社で行われた。書類選考の1次審査を通過した49組が独自のビジネスプランを熱く発表。12月5日のファイナルステージに進出する18組が決まった。

49組がプレゼン

2次審査は、548件のエントリーから選ばれた出場者が3分間でプランをプ

レゼンテーション。国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)といった社会

課題解決につながるアイデアや、コロナ禍から見いだしたプランなどが発表された。5人の審査員は、第一線で活躍する経営者の視点から鋭く質問し、出場者は同業との差別化や収益性などについて自身のプランのメリットを訴えた。会場では協賛社の関係者も発表を見守った。

起業、第一創業を目指す「ビジネスプラン部門」からは高校生の部の6組、大学生・専門学校生の部と一般の部のそれぞれ3組が選ばれた。創業5年未満の起業家を対象とした「スタートアップ部門」、創業5年以上の事業者がエントリーする「イノベーション部門」もそれぞれ3組が選出され、最終審査への切符をつかんだ。

審査員は田中仁・ジーンズホールディングスCEO、腰高博・コシダカホールディングス社長、鳥越淳司・相模屋食料社長、荒井正昭・オープンハウス社長、清

水直樹・上毛新聞社取締役が務めた。

ファイナルステージは前橋市のヤマダグリーンロード前橋で公開で開かれ、デザインコンサルティングを国内外で展開するロフトワーク(東京都)の林千晶会長が特別講演する。入場は無料。

(北沢彩)